けしてきえないひ

作／福田　修志

暗闇の中、鈴の音が響き渡る。
月明かりが差し込み、うっすらと建物が見え始める。
石造りの古びた建物。真ん中にはテーブルと椅子が四つ。
壁から突き出したパイプと、上から垂れている一本の紐。
その網にくくりつけられている鈴は、強い恐怖を伝えるように激しく揺れている。
やがて、階段は赤く光り、勢いよく燃える火の音。
パイプから聞こえる男の声。

幸男　「奈海ちゃん？奈海ちゃん！叔父さんが！……奈海ちゃん！」

ふらふらと目を擦りながらやって来る奈海。

幸男　「奈海ちゃん！」

大きな火の音と鈴の音が響き渡り、奈海は階段を駆け上がる。
その場を覆い尽くすように、辺りは暗くなっていく。

一・朝

ゆっくりと明るくなり、エプロン姿の紀子が箒を持ってやって来る。
紀子はおもむろに床を掃き始め、しばらく掃いた後、別の場所の物を動かす。

紀子　うわ～こりゃ拭かなきゃダメだな。（奥の部屋に向かい）ねえ、ぞうきんとバケツ知らない？
奈海　（声のみ）あるやろ？
紀子　ないから聞いてるの。
奈海　（声のみ）じゃあ上じゃ？
紀子　上？……なんで上げたの？

ぶつぶつ呟きながら階段を昇っていく紀子。
すると上から幸男が降りてくる。

紀子　うわっ……。

階段の途中で立ち止まる幸男と紀子。

幸男　……おはようございます。
紀子　おはよう。来てたの？
幸男　はい。あの……はい。
紀子　挨拶ぐらいしなさいよ。ビックリするじゃない。

幸男　（ニヤリとする）
紀子　……何？
幸男　いや、何か新鮮ですね。
紀子　は？
幸男　こがんして怒られるとも、紀子さんがココにおるとも……。
紀子　まあね……。
幸男　昨日、寝れました？
紀子　……まあ。幸男くんは？
幸男　俺は大丈夫ですけん。
紀子　また無理してそういうこと言う。
幸男　本当、大丈夫ですって。
紀子　幸男くんに倒れられたら、困るんだからね。
幸男　そがんことなかですよ。
紀子　本当。助かってます。
幸男　俺、何もしとらんですけん。
紀子　ううん。お父さんもね、感謝してると思う。
幸男　どがんでしょう。
紀子　してるって。
幸男　俺、足手まといって、よう言われよったですけん。
紀子　言うだけだよ。……頑固親父だから。
幸男　そいは同感です。
紀子　……上、どう？
幸男　今、落ち着いてます。昨日ほど風もなかし、今日はこのままいけば良かとですけど……。
紀子　（しみじみと）う～ん。
幸男　何ですか？
紀子　慣れてるねえ……。
幸男　まあ、それなりに……。
紀子　こりゃ幸男くんにお婿に来てもらうしかないか……。
幸男　いやいやいやいや。
紀子　……幸男くん。冗談よ？
幸男　……分かってますって、それぐらい。
紀子　ははは……ご飯は？食べて来た？
幸男　ああ……っと……。
紀子　食べて。
幸男　いや……。
紀子　手伝うてくれるのは嬉しいけど、遠慮するのは好きじゃないなあ。
幸男　じゃあ……。

紀子は笑顔で返し、階段を降りていき、幸男が後に続く。

紀子　昨日は何かつまめた？
幸男　チョロチョロッと。
紀子　じゃあ昨日の分までしっかり食べて。シェフは違うけど。
幸男　もしかして紀子さんの手料理ですか？
紀子　何？不服？
幸男　いや……紀子さんの作ったもんって、泥団子以来やなって思って……。
紀子　ああ、思い出の味だね。

幸男は立ち止まる。それに気づく紀子。

紀子　大丈夫よ。毒味は奈海がしてるから。
幸男　風の音……聞こえません？

聞き耳を立てる紀子と幸男。

紀子　そう？
幸男　やっぱ気になるけん、上に居っときます。
紀子　大丈夫よ。
幸男　西風の吹き始めたって思うたら、急に強うなっとです。去年もあったとですよ。
紀子　そんなに食べたくないの？
幸男　じゃなくって。
紀子　はは～ん。**（奥を指して）**ん？
幸男　**（首を振る）**いやいや。
紀子　**（奥を指して）**ん？
幸男　紀子さん。
紀子　そうじゃないかなって、薄々思ってましたけど。
幸男　違いますって。
紀子　まあまあ、皆まで言うな、皆まで言うな。
幸男　絶対誤解しとるでしょ？
紀子　**（奥を指して）**後でおにぎり持って行かせるから。
幸男　ん～。**（苦悩の叫び）**

逃げるように階段を駆け上がる幸男。

紀子　はあ……。**（溜息）**

そこへ、奥から奈海が戻る。

奈海　ごちそうさま。

紀子　お皿洗った？
奈海　え～。お姉ちゃん、してよ。
紀子　それぐらいしなさい。
奈海　だって……。
紀子　いつもはしてるんでしょ？
奈海　いつもしてないよ。
紀子　お父さんにさせてたの？
奈海　いや、幸男くんに。
紀子　幸男くんに？
奈海　だってお父さんが……。
紀子　もう……甘いんだから。
奈海　だって……。
紀子　自分でしなさい。
奈海　居る時ぐらい甘えたって良かたい。
紀子　私は、ずっといないでしょ。
奈海　やけん、今は良かやかね。
紀子　今だからこそ、自分でやるの。これから一人になるんだから。
奈海　え？……お姉ちゃん、継がんと？
紀子　あ～、無理無理。
奈海　何で何で？
紀子　私はね。月島の家に入ったの。もう鰐口の人間じゃないんだから。
奈海　そいが理由？
紀子　大きな問題よ。
奈海　そっか……。
紀子　まあ……その話は後でね。
奈海　後って？
紀子　美咲が来てから。
奈海　来んさ。
紀子　来るって。
奈海　来とらんたい。
紀子　昨日電話で言ってたの。
奈海　話合わせただけじゃなかと？
紀子　**（時計を見て）**朝の船って、九時よね？
奈海　どこかほっつきまわっても、一時間もかからんやろ？
紀子　迎え、行って。
奈海　面倒くさい。
紀子　奈海。
奈海　確認してよ、じゃあ。
紀子　……。

スマホを取り出す紀子。慣れた手つきで電話するが、すぐにやめる。

紀子　（スマホを見て）あれ？昨日は入ったんだけどな……。
奈海　何か、駄目っぽいよ？入ったり入らなかったり。
紀子　あ、そう。大変ね。
奈海　嫌な感じ。
紀子　そういうんじゃないって。
奈海　……。

仕方なく奥の部屋に行き、黒電話から美咲の携帯に電話する紀子。

紀子　（声のみ）港は繋がったよね？
奈海　どうかなあ？

受話器を戻し、再びスマホをいじる紀子。

奈海　ねえ、お姉ちゃん……。
紀子　（声のみ）ん？
奈海　スマホ買って。
紀子　（声のみ）自分で買いなさい。
奈海　良かたい。
紀子　（声のみ）何で私が買わなきゃいけないの？
奈海　だって……。

受話器を持ったまま、紀子が奈海を覗き込む。

紀子　……大丈夫？本当に。
奈海　何が？
紀子　はあ……。（溜息）

ようやく電話が繋がる。

紀子　あ、もしもし？紀子です。……いえいえ、こちらこそお世話になりました。……で、すみません。美咲、来てませんか？……そうのはずなんですけど……お願いします。……はい。分かってます。……はい。失礼します。

紀子は受話器を戻す。

奈海　時江叔母さん？
紀子　うん。来てないって。

奈海　そりゃ行かんやろ。
紀子　あっちに寄ったかもしれないでしょ。
奈海　寄るわけなかさ、あがんとこ。
紀子　……あんた、時江叔母さんと何かあった？
奈海　別に。
紀子　あったんでしょ？
奈海　何もなか。向こうが勝手に嫌っとるだけ。
紀子　理由もなしに？
奈海　そがん人さ。昔から。
紀子　でもね、これからは上手くやっていかないと。
奈海　会わんかったらよかたい。
紀子　そうもいかないでしょ？生活費も預けるんだから。
奈海　は？何それ？
紀子　しばらくは、幸蔵叔父ちゃんのところにお世話になって……。
奈海　何で勝手に決めると？相談してよ。
紀子　あんたに任せたら心配なの。
奈海　やけんって勝手に決めて良か話じゃなかたい。
紀子　あんた一人暮らししたことないでしょ？
奈海　あるよ。大学で。
紀子　寮でしょ？
奈海　一緒たい。
紀子　一緒じゃ無いの。
奈海　出来るって。
紀子　……お金預けたら何に使う？
奈海　スマホ。
紀子　ほら。
奈海　よかたいそんぐらい買ったって。
紀子　電波も入らないのに買ってもしょうがないでしょ？
奈海　ちゃんと使えるとのあるさ。
紀子　そんなの持ってたらね、すぐに一文無しになるの。
奈海　ならない。
紀子　お父さんが残したもの、ココしかないんだからね？
奈海　……。

紀子から顔を逸らし、椅子に腰掛けている奈海。

紀子　上行って幸男くんと代わりなさい。
奈海　まだ話、終わっとらん。
紀子　鰐口の人間が火の世話しなくてどうするの？
奈海　小言ばっかり。

紀子　（促して）早く行く。

不服そうに階段を昇っていく奈海。紀子はそれを見ている。
やがて立ち上がり奥の部屋に行こうとしたところで鈴が鳴る。
紀子は連絡パイプに呼びかける。

紀子　どうかした？
幸男　「薪のあったでしょ？新しかとの。」
紀子　ええ？
幸男　「何処置いたか、知らんですか？」
紀子　えっと……分かんない。奈海が行ったから聞いて。
幸男　「分かりました。」
紀子　足りないの？
幸男　「……何か言いました？」
紀子　薪、足りない？
幸男　「はい。風が南に回ったとです。」
紀子　そっち行こうか？
幸男　「良かです。二人でなんとかします。」
紀子　分かった。……イチャイチャしないのよ～。
幸男　「……」
紀子　イチャイチャ……。
奈海　（遮って）「お姉ちゃん、うるさい！」

突然の大きな声にパイプから離れる紀子。

紀子　おお、怖っ。

気がつくと美咲がスーツケースを引いて立っている。

美咲　ただいま。
紀子　……お帰り。
美咲　久しぶり～。
紀子　久しぶりじゃないでしょ？何してたの？
美咲　まあ、色々と。
紀子　色々ねぇ。
美咲　ねえ、翔くんは？どこ？
紀子　帰ったよ。昨日。
美咲　え～。早い。
紀子　今日から学校なの。
美咲　もっとゆっくりしてけば良いのに。早いよ。

紀子　あんたが遅かっただけ。
美咲　あたしのせいじゃないでしょ？
紀子　まあそうだけど……。
美咲　キャンセル待ちで大変だったんだからね。
紀子　あと一日早く帰って来れたんじゃないの？
美咲　……出来たらしてるって。
紀子　でもさ……。
美咲　もう、後にして。久々船乗ったからクッタクタ。
紀子　先にお父さんにお線香あげてきなさい。
美咲　……うん。
紀子　あんた一人だけだからね。
美咲　はいはい。

美咲は奥の部屋へ行こうとする。

紀子　お線香、分かるよね？
美咲　子どもの数。
紀子　うん。

美咲は立ち止まる。

美咲　……あたし子どもいないけど？
紀子　お父さんの。
美咲　あはは、そうでした。
紀子　マメに帰らないから……。
美咲　3人で良いんだよね？
紀子　他に誰がいるの？
美咲　お葬式の時に出てこなかった？実は娘です、みたいなの。
紀子　バカ言ってないで、早く済ませなさい。
美咲　はいはい。

美咲は再び奥へ行こうとして立ち止まる。

美咲　お姉ちゃん……。
紀子　何よ？
美咲　……ううん、何でもない。

美咲は奥へ行き、その後ろ姿を紀子は見つめる。
入れ違いに奈海が階段を降りてくる。奈海の手には幸男の靴がある。

奈海　美咲姉ちゃん、来たやろ？
紀子　あんた、もう降りてきたの？
奈海　だって出て行ってくれんとやもん。
紀子　二人で仲良くすれば良いじゃない。
奈海　イヤ、気持ち悪か。
紀子　あんた少しは幸男くんに感謝しなさいよ。
奈海　イヤだ。
紀子　あんなにしてくれる人、なかなかいないよ？
奈海　別に頼んだ覚えなかし。
紀子　あのねえ……。
奈海　紀子姉ちゃんさあ、勘違いしとるよね？
紀子　何が？
奈海　あたしと幸男くんに何かあるって思うとるやろ？何もなかけんね？
紀子　またまた。
奈海　ないない。
紀子　何もないことないでしょ？
奈海　ないです。
紀子　ずっと手伝ってくれて？毎日通って？
奈海　でもそれだけ。
紀子　それはね……愛よ。
奈海　キモッ。
紀子　じゃなきゃ来ないってば。
奈海　やめてよ。
紀子　何かあったんでしょ？
奈海　ない。
紀子　だから時江叔母さん怒ってるんじゃないの？
奈海　関係なかって言いよるし。
紀子　まあ、奈海が話したくなったら話してくれれば良いから。
奈海　はいはい……。

美咲が奥から顔を出す。

美咲　よ！
奈海　美咲姉ちゃん。
美咲　お～。大人になったねえ。よしよし。
奈海　お姉ちゃんも大人っぽくなっとるたい。
美咲　そう？
奈海　写メで見るよか、全然良い。
美咲　そんなに変わらないでしょ。
奈海　なんか、遠くに行っちゃったって感じ。

美咲　褒めてもお年玉はないからね。
奈海　え～、稼いどるとやろ？
美咲　ないない。
奈海　忙しくしとるたい。
美咲　ふふふ……また映画に出るの。
奈海　え～！凄か～。
美咲　若い監督さんなんだけど、ご指名で。
奈海　いいな～。
紀子　それでお正月も仕事？
美咲　……うん。
紀子　休めなかったの？
美咲　無理だよ。お姉ちゃん、分かってない。
紀子　分からないで良いよ。
美咲　……。
紀子　盆も正月も帰って来ない。お父さんに心配かけるだけかけといて、お葬式にも来れない仕事なんて分かりたくもありません。
奈海　しょうがなかたい、そういう仕事やもん。
紀子　**（奈海に）**あんたは黙っときなさい。
奈海　……。
美咲　お葬式に、間に合わなかったのは、悪いと思っています。……はい。
紀子　『火照』の子供が揃っていないって、大騒ぎになったのよ？
奈海　**（美咲に）**幸蔵叔父ちゃんが特にね。
紀子　奈海。
奈海　だって今更言うてもしょんなかたいな。終わったことやし。
紀子　**（美咲に）**……ちゃんと謝ったの？
美咲　当たり前じゃない。
紀子　……なら良いけど。
奈海　紀子お姉ちゃん、ほら、時間なかとやろ？
紀子　……そうね。
美咲　何が？
紀子　明日までに次の『火照』を決めるようにって、幸蔵叔父ちゃんから。
美咲　明日まで？
紀子　お父さんが亡くなってから、一週間過ぎると、海の神様がいなくなるんだって。
美咲　気の短い神様だこと。
奈海　寂しがり屋さ。
紀子　奈海。**（睨む）**
奈海　……。
紀子　断っておくけど、遺産とかそういうのはないから。
奈海　え～。
美咲　何？期待してたの？

奈海　埋蔵金的な……。
紀子　ないから。粛々とココで暮らして、粛々と火の世話をする。それだけ。
奈海　……。
紀子　出来れば立候補して欲しいけど……どうする？
美咲　パス。
紀子　あんた少しは考えなさい。
美咲　無理無理、絶対無理。
紀子　就職してないんだから、出来るでしょ？
美咲　これからって時に、一生ここに縛られるのなんて、まっぴら御免です。
紀子　『火照』やりながら、女優だって出来るんじゃないの？
美咲　出来るわけないよ、そんなの。
紀子　為せば成る。
美咲　じゃあ、お姉ちゃんがすればいいじゃない。
紀子　私は無理よ。もう鰐口の人間じゃなくなったんだから。
美咲　旦那と子ども連れて、崎島に住めば良いじゃない。
紀子　そんなに簡単なことじゃないの。
美咲　長女なのに。
紀子　関係ない。
美咲　あたしは嫌です。
紀子　あたしは出来ない。

膠着状態の二人、その間を裂くように。奈海が手を挙げる。

奈海　……はい。
紀子　何？
奈海　あたし、しようか？
美咲　へ？
紀子　は？
奈海　お姉ちゃん達、嫌とやろ？そいやったら、よかよ。あたしするけん。
美咲　……。

紀子と美咲は顔を合わせる。

紀子　……あ、そう。奈海、やってくれる？
奈海　良かよ。嫌いじゃなかし。
美咲　……もっと早く言いなさいよ。
紀子　あんたてっきり崎島を出たいんだと思ってた。
奈海　しょんなかたい。誰かがせんばとやろ？
紀子　そう。
美咲　ちょっと……しばらく見ない内に、立派な大人になったねえ。

奈海　お父さんのしよることば見とったらさ、色々分かったけん。
紀子　あんたは鰐口家の誇りよ。
奈海　そいけど、やりたかことはやるよ？良かかな？
美咲　良いに決まってるじゃない。（紀子に）ねえ？
紀子　青春しなきゃ駄目。
奈海　良かった。反対されるって思うとった。
美咲　するわけないじゃない。あんたも鰐口の人間なんだから。
紀子　じゃあ、奈海が次の『火照』ということで、異義のある人。
美咲　異議なし。
紀子　異議なし。
奈海　もちろん異議なし。
紀子　よし、じゃあ急いで儀式済ませましょ。
美咲　オッケー。

紀子、奥へ行く。奈海は美咲を捕まえる。

奈海　ねえねえ、儀式って何？
美咲　さあ？
奈海　知らんと？
美咲　知るわけないじゃない。
奈海　ええ……。
美咲　何かあるんじゃない？
奈海　何かって？……生け贄的な？
美咲　え～ヤだ……。

紀子が奥から戻り、数珠のようなもの（三珠）をテーブルの上に置く。

奈海　何するの？
紀子　『三珠の儀』。
奈海　みたまのぎ？

古い本を開く紀子。

美咲　奈海、知らないみたいだからさ、教えてやって。
奈海　美咲姉ちゃんだって知らんし。
紀子　火照になる儀式だって。
奈海　そがんとあると？
美咲　お姉ちゃん、よく知ってたね？
紀子　時江叔母さんに、昨日教わったから。
奈海　ほら、みんな知らんたい。

美咲　知ってるわけないじゃないの。あたしたちが生まれる前の話でしょ？
紀子　だね……。

奈海は三珠を指して。

奈海　これ何？
美咲　これが三珠なんじゃないの？ほら、玉、三つだし。
奈海　何で三つ？
美咲　さあ？
紀子　美咲、これ振って。

紀子は美咲に古びた金幣を渡す。

美咲　何これ？
奈海　あ、それ、神社とかで見たことある。
美咲　振ればいいの？
紀子　たぶん……。

不安そうな顔で見つめ合う三人。

紀子　まあ、なんとなくやってみよう。
奈海　勢いでやっちゃおう。
美咲　オッケーオッケー。

それっぽく金幣を振る美咲。

奈海　あ、ぽい、ぽい。さすが女優。
美咲　（神妙に）始めなさい。

姿勢を正す紀子。真似をする奈海。
紀子は、二拝二拍手一拝を行い、奈海はなんとなく真似をする。

紀子　え～「火照になる者、その名、海の神の前に誓わん。」
奈海　……え？何？どがん意味？
紀子　名前言いなさい。
奈海　……鰐口奈海。
紀子　「鰐口奈海。汝、火照となりて、その御霊を海の神に捧げん。」
奈海　（美咲に）意味分からん。
美咲　分かんない時は、「はい」って言っときゃいいのよ。
奈海　えっと……はい。

紀子　「その御霊、交わされた証として、我、汝に三珠を渡さん。」

紀子は奈海に三珠を仰々しく渡す。

奈海　（頭を下げて）はは～。

紀子　（美咲に）振って！

必死に金弊を振る美咲。

美咲　フン！フン！フン！

紀子　（美咲に）ストップ！

美咲は振るのをやめる。

紀子は本を見ながら、なにやら可笑しなポーズをし始める。

紀子　こうかな……。

奈海　何それ？

紀子　みんなするの！

慌てて紀子の真似をする奈海と美咲。

紀子　「み～た～ま～。」

呆気にとられる奈海と美咲。

奈海　え？何？

紀子　みんなで言うのよ。

奈海　え～。

美咲　恥ずかしいよ。

紀子　私が一番恥ずかしいんだからね。早く。

再び三人が可笑しなポーズ。揃ったところで。

三人　み～た～ま～。

改めて奈海に向き直る紀子。

紀子　奈海、『火照』をよろしく。

奈海　こちらこそ。

紀子は二拝二拍手一拝をし、美咲と奈海もそれを真似る。
再び本を食い入るように見る紀子。

紀子　……よし、儀式終了。
美咲　なんか上手く出来たんじゃない？
奈海　うちたち天才？
紀子　時江叔母さんに電話してくるね。
美咲　はいはーい。

紀子、奥の部屋へ行く。

奈海　何か仰々しかね。
美咲　儀式なんてね、どれもあんなもんよ。
紀子　あ、もしもし、時江叔母さん？……

紀子が電話するのを見ている美咲と奈海。

美咲　あんたさ、本当に良いわけ？
奈海　うん、お父さんにも、そがん話しとったし。
美咲　じゃあ、お父さん公認。
奈海　やりたかことは、やる。で、変えたかところは、変える。
美咲　お、いいねぇ。
奈海　あたしね、色々考えとっと。
美咲　ふんふん。
奈海　今までのやり方やったら、無駄の多かと思うとさね。
美咲　あるある。
奈海　でね。もっと合理的にした方が良かと思うと。
美咲　ほうほう。
奈海　まず、火をやめます。
美咲　ん？
奈海　毎日火ば、くべよったら、手間かかるし、無駄たい。やけん、火じゃなくて、ライトにしようと思うと。
美咲　ライト？
奈海　でっかかＬＥＤライトば買ってきて、設置すると。そいやったら、メンテナンスだけで済むし、一日中付きっきりでおる必要なかやろ？
美咲　いや、そうだけどさ……。
奈海　したら、あたしが見る必要もなかたい？バイトくんば雇ってさせとけば、あたしは好きなことの出来るって思うとさね。
美咲　バイト……。
奈海　どう？良か考えって思わん？

美咲　……お姉ちゃん！お姉ちゃん！
紀子　（美咲に）何？
美咲　ちょっ、ちょっ、ちょっ……。
紀子　……じゃあ待ってますんで……はい。はい……失礼します。

受話器を戻し、紀子が戻ってくる。

紀子　何？
美咲　奈海、アルバイトを雇うって。
紀子　……は？
奈海　そんぐらいしてもよかやろ？
紀子　……まあ、良いんじゃないかな。
奈海　やった。
美咲　良いの？
紀子　何よ？一人じゃ何かと大変でしょ？
美咲　違うから。
奈海　実は今日、来てもらうとさね。
美咲　そうなの？
奈海　こがん早く来てくれるって思わんかったけど。
紀子　じゃあ、挨拶しておかないとね。
美咲　お姉ちゃん！
紀子　もう、何よ？
美咲　バイトだよ？アルバイト。
紀子　ご飯ぐらい他人に作ってもらっても良いじゃない。
美咲　違う違う。『火照』のバイト。
紀子　……え？何？どういうこと？
奈海　『火照』ば、バイトくんにさせようって思うと。
紀子　（大げさに驚いて）は？……あんた何考えてるの？
奈海　駄目と？
紀子　駄目に決まってるじゃない。
奈海　さっき良いって言うたたい。
紀子　ダメダメダメダメ、絶対ダメ。バイトくんって……出来ないでしょ？
奈海　やけん、火ばやめてＬＥＤライトにして。
紀子　ライト……。
奈海　うん。
紀子　頭痛い……。
美咲　どうやったらそんなこと考えられるわけ？
奈海　神社だって、巫女さんみんなバイトでしょ？一緒たい。
紀子　一緒じゃないでしょ。
奈海　何で？

美咲　いったい何年『火照』が続いてると思うの？
奈海　……八〇〇年。
美咲　八〇〇年よ？八〇〇年。分かる？八〇〇年前って言ったら、あれよ、えっと…
…（紀子に）何時代？
紀子　鎌倉時代。
美咲　そう、鎌倉時代よ？あんた鎌倉にも行ったことないでしょ？
奈海　関係なかし。
美咲　それぐらい分からない大きな物なの。
奈海　訳分からんし……。
紀子　奈海。『昔、海の神様が……』。
奈海　もうそれ、耳にタコが出来るくらい聞いた。
紀子　だったら……。
奈海　でも、あがんとやり方さえ分かれば、誰がしても同じたい。
紀子　だから火をやめるのもダメだし、バイトくんとかもダメ。
奈海　ＬＥＤにしたらバイトでも出来るやかね。
紀子　出来るとか出来ないとかの話じゃないの。『火照』は鰐口の誇りなの。
美咲　バイトくんなんかにさせていいものじゃないの。
奈海　なんでわざわざきつかことば、せんばと？
紀子　何でって……。
奈海　じゃあお姉ちゃんたちしてよ。
紀子　……。
美咲　……。
奈海　出来んとやろ？したら、あたしの好きなごとしてよかたい。
紀子　ダメ。
奈海　なんで？あれもダメ。これもダメ。そいばっかり。
紀子　ダメなものはダメなの。
奈海　……もうよか。
美咲　奈海。
奈海　あたしするけんね。あたしが『火照』やもん。時江叔母さんにもそがん言うけん。
美咲　（思い出して）お姉ちゃん、時江叔母さんに。
紀子　あ、うん。

紀子、急いで奥へ行く。奈海は階段を上がろうとする。

美咲　どこ行くの？まだ話終わってないよ？
奈海　……あたし間違っとらんし。
美咲　『火照』の仕事を他人に任せるわけには、いかないの。
奈海　幸男くんは、しとるたい。
美咲　それ、子供の頃の話でしょ？

奈海　昔のことじゃなか。今もしよる。
美咲　そうなの？
奈海　お父さんが生きとった時も。今も。
美咲　幸男は……従兄弟だし……家族みたいなもんだから……。
奈海　でも、鰐口の人間じゃなか。そうやろう？
美咲　そうだけど……。
奈海　……上におるけん。
美咲　奈海！
奈海　お姉ちゃん、他人にさせたかと？させたくなかと？どっち？

何も言えずに考え込む美咲。

奈海　幸男くんと代わってくる。

階段を上がっていく奈海。美咲は何も出来ないでいる。
奥の部屋から電話を終えた紀子が出てくる。

紀子　マズいよ……。
美咲　どうしたの？
紀子　幸蔵叔父ちゃんが来る……。
美咲　は？
紀子　もう漁協にまで連絡したって……。
美咲　どうするの？
紀子　……奈海は？
美咲　（上を指して）幸男と代わるって。
紀子　……そう。

紀子は、連絡パイプの横の紐を引く。

幸男　「……どうしました？」
紀子　奈海、来ると思うから、代わって。
幸男　「大丈夫ですよ？」
紀子　大丈夫とかじゃなくって……いや、いい。任せる。
幸男　「どがんかしたとですか？」
紀子　とにかく奈海の言うこと聞いて、ね？
幸男　「はい……了解です。」

テーブルの方に戻り、椅子に腰掛ける紀子。

紀子　幸男くんがいたの、マズかったなあ……。

美咲　鰐口の人間じゃないからね……。
紀子　関係無くはないと思うの。
美咲　でもね……。
紀子　そう……。
美咲　……さっき奈海にも、言われた。
紀子　何を？
美咲　『幸男はいいのか？』って……。
紀子　家族みたいなもんなんだけど……。
美咲　家族じゃないからね……。
紀子　だよねえ……。
美咲　で、どうするの？幸蔵叔父ちゃん来るんだよね？
紀子　……入口に鍵かけてさ、入って来られないようにしよう。
美咲　それ、おかしいって。
紀子　うん、分かってる。現実逃避。
美咲　……ちょうどいいからさ、幸男、連れて帰ってもらおうよ。
紀子　何て言うのよ？
美咲　「息子さんが勝手に手伝うので困ってます」って。
紀子　今更？
美咲　今更も何も……だいたい何で幸男がいるわけ？
紀子　あんたがいない間に色々あったのよ。
美咲　色々って何？
紀子　幸男くん、一年ぐらい前から、お父さんの手伝いやってて。
美咲　お父さんが頼んだの？
紀子　一回倒れたじゃない。それで。
美咲　奈海は？役立たずなわけ？
紀子　一年前だから、大学。
美咲　ああ……。
紀子　それからずっと……。
美咲　だからって、幸男に手伝わせなくてもいいじゃない？
紀子　今更そんなこと言ったってしょうがないでしょ？
美咲　……。
紀子　あたしも、あんたも、一年前に倒れた時、戻らなかったんだから。
美咲　……何もかも遅い。
紀子　そういうこと。
美咲　で？
紀子　考えたくない……。

階段を降りてくる作業着姿の幸男。紀子がそれに気がつく。

紀子　お疲れ様。

幸男　奈海ちゃん、どがんかしたとですか？
紀子　放っといて。
幸男　……まあ、放っとくしかなかぐらい荒れ狂うとったですけど……。
紀子　今、話しても無駄だから。
幸男　はあ……。
紀子　お茶入れようか。
幸男　あ、はい。

席を立ち、奥の部屋へ向かう紀子。
幸男は自分の靴を見つけて履こうとするが、美咲を意識して座れずにいる。

美咲　座ったら？
幸男　ああ、うん。うん、そうやね。

気まずい静けさ。

幸男　**（無理なテンションで）**よ、久しぶり。
美咲　ああ、久しぶり。
幸男　……美咲さんさあ……。
美咲　うわっ、キモっ。
幸男　キモ……。
美咲　この辺、ムズムズする。
幸男　いやでも、もう……お互い、結構よか歳やし、ミーちゃんって呼ぶとも何かおかしかたい？
美咲　ああ、やめてやめて。
幸男　やろ？やけん……美咲さん。
美咲　**（溜息をついて）**何ですか？幸男さん。
幸男　何って言われてもなあ……。
美咲　**（大きく溜息をつく）**はあ。

紀子が戻ってくる。

紀子　会話弾んでるみたいね？
美咲　弾まないよ、こんなのと。
幸男　厳しかなあ……。
紀子　**（美咲を指して）**照れてんのよ。
美咲　照れてません。
紀子　え～？だって何年ぶり？
幸男　十年……ぶりぐらいじゃなかですか？
紀子　でしょ？そりゃ照れるって。

美咲　照れてない。顔も忘れたぐらいでした。
幸男　（紀子に）あ、でも見たのは一年ぶりです。
美咲　は？
幸男　来とったろ？去年、叔父さんが倒れて少ししてから。
美咲　……あたしが？
幸男　港で見たよ。後ろ姿やったけど。
美咲　それ、どこの誰と勘違いしてるの？
幸男　絶対そうって。
美咲　本人が違うって言ってるのに。
幸男　いやいやいやいや。おかしかぞー。
美咲　お姉ちゃんもさ……。

コソコソと階段を上がろうとしている紀子。

美咲　何でそんな気配消して去って行こうとしてるの？
紀子　いや私、邪魔かなって。
美咲　やめて。
紀子　同級生トーク。同級生トーク。
幸男　そがん気ば遣わんで下さい。
美咲　お姉ちゃん、居て。ね？
紀子　上行って、様子見てくるね。
美咲　お姉ちゃん！
紀子　鰐口の人間として、お客様に失礼がないように。
美咲　……。
紀子　（幸男に）ごゆるりと……。
幸男　（笑顔で返す）

階段を上がる紀子。美咲は座り直し、幸男から体を逸らす。

幸男　こがん改められても……ねえ？
美咲　……。
幸男　（咳払いをして）良い天気だよね？
美咲　……そうね。
幸男　こんなに良い天気だと、海はベタ凪だろうなあ。
美咲　……無理して、標準語使わなくていいんだけど。
幸男　無理して無いよ……。
美咲　訛ってるって。
幸男　……。

言葉を発せられなくなってしまった幸男。

見かねて美咲が話しかけようとする。

美咲　（同時に）『火照』の仕事……。
幸男　（同時に）最近の……。
美咲　……何？
幸男　いや、何でも……。
美咲　何か話そうとしたでしょ？
幸男　いやいやどうぞ、そっちの話で。
美咲　言いなよ。
幸男　そがん大した話じゃなかけん。
美咲　良いから。
幸男　いやいや。
美咲　言いなって！
幸男　はい。

美咲の迫力に気圧される幸男は、姿勢を正す。

幸男　え～……最近の……公共事業について、どがん思いますか？
美咲　あんた、よくこの流れで、そんなどうでもいい話が出来るね？
幸男　ごめんなさい。
美咲　意味分かんない。
幸男　やけん、そっちが良かって……言うたとに。
美咲　……公共事業って何？
幸男　いいよ……。
美咲　良いから、何？
幸男　……五年くらい前に、本土の方で、大きか工事があったと知っとるよね？
美咲　知らない。
幸男　テレビに出て、結構大きかニュースになったたい……見らんかった？堤防がドーンって……。
美咲　ああ、埋め立てしたとかってヤツ？
幸男　そうそう、そいで、潮の流れの変わったって言うて大騒ぎして、「開門しろ！」とか、「するな！」とか言いよる話。
美咲　はいはい。あったね。
幸男　……どがん思う？
美咲　別に。
幸男　別にって……どがんも思わんと？
美咲　本土の話でしょ？何か問題でもあるの？
幸男　五年前はさ、テレビとかでもやってさ、マスコミも取り上げてくれたとに、今はさ、どがん騒いでも、誰も聞いてくれんたい。
美咲　旬が過ぎたんだろうね。

幸男　そいおかしかよ。困っとる人は、まだおるとに。
美咲　そんなもんじゃないの。
幸男　元々、決まっとったけんっていう理由だけで進めて、人ば苦しめて、前にも後ろにも進めんって、おかしかやろ？
美咲　でも、それで得した人だっていたわけでしょ？
幸男　じゃあ得しなかった人のことは良いの？
美咲　う～ん、パス。頭使いたくない。
幸男　もうちょっと真剣に考えてよ。
美咲　だから、何で、今、そんな話しなきゃいけないの？
幸男　聞いたけんたい。
美咲　じゃあ良い。この話、おしまい。

二人の会話の途中で、階段の所に、紀子が身を潜めている。
美咲がそれに気が付く。

美咲　……見えてるんだけど。
紀子　私は壁。壁の女。
美咲　……お姉ちゃん。無理だと思う。
紀子　私に構わず、続けて続けて。
美咲　そんなとこにいたら、無視出来ないでしょ？
紀子　何よ、思い出話に花が咲いてたんでしょ？
美咲　残念、咲いてない。
紀子　またまた～。何話してたの？
美咲　最近の公共事業について。
紀子　は？
美咲　意味分かんないでしょ？
紀子　幸男くん……君はもう少しやる男だと思ってたよ……。
美咲　でしょ？ほら。
幸男　申し訳ありません……。
紀子　まあ、崎島にとっては大きな問題かもしれないけど。
幸男　ですよね？
紀子　でもタイミングが、悪い。
美咲　お姉ちゃん、もっと言って。難しい話で私を惑わすなって。
紀子　そんなに難しくない話だけど……。
美咲　無理なものは無理。
紀子　……あんたもう少し知恵つけた方が良いよ？
美咲　何それ？
紀子　潮の流れが変わったら？
美咲　魚が獲れなくなる。それくらい分かるよ。
紀子　だから、漁師さんたちは困っている。開門運動をしても、年々誰も相手にして

くれない。何も解決されない。**（幸男に）**そういうことでしょ？

幸男　はい。

紀子　お父さんに聞いた時は、大丈夫とか言ってたけど、どうなの？実際。

幸男　厳しかって言うてますね。

紀子　そっか……幸蔵叔父ちゃんも大変だね。

幸男　みんなギリギリですよ。

紀子　確か、裁判所の結果出たんじゃなかったっけ？

美咲　だからさ、そういう難しい話であたしを置いていくのやめて。

紀子　……あんたさあ、ニュースとか見てないの？

美咲　見てるよ？

紀子　新聞で？

美咲　スマホで。

紀子　悲しいね……バカな女優って。

美咲　茄子顔の主婦に言われたくないわよ。

紀子　誰が茄子なの？

美咲　茄子に茄子って言って何が悪いの？

紀子　やだねえバカな女優は、頭だけじゃなくて、口も悪いの？

美咲　誰がよ？

紀子　何よ？

幸男　あの……お茶下さい。

少し落ち着き、幸男と美咲にお茶を出す紀子。

三人はお茶を飲む。

（取り繕うように）女優さんしよるとよね、奈海ちゃんから聞いた。

幸男　まあ一応ね。

美咲　凄かよね。超有名人。

幸男　奈海の話は話半分以下で聞いてた方が良いと思う。かなり妄想が入ってるから。

紀子　そうなんですか？

幸男　**（美咲に）**あんたが自慢話ばっかりするからよ。

紀子　あたしは「話せ」って言うから、話しただけです。

美咲　そんな夢や希望がね、異様なくらい大きく膨らんでるの。

紀子　**（幸男に）**何て聞いてる？

美咲　ハリウッド映画に出たって……。

幸男　ほら……。

紀子　……。

美咲　え？……出とらんと？

幸男　出てます。

美咲　嘘つかないの。

紀子　出てるの！……エキストラだけど。

美咲

紀子　……痛い。
幸男　じゃあ、六本木ヒルズに住んどるっていうとも？
美咲　住んでません。
幸男　ジャスティン・ビーバーとカラオケ行ったっていうとも？
美咲　会ったことありません。
幸男　仕事ば取るために、プロデューサーとエッチばしたっていうとも？
紀子　あるわけないじゃない。
幸男　え～。**（驚き）**
紀子　嘘、嘘。全部、嘘。
幸男　え～、その話、一時期、崎島中で大騒ぎになったとですよ？
紀子　みんなテレビの見過ぎ。
幸男　ですよね。何かおかしかって思いよったとですよ。
紀子　**（階段の方を見て）**本当、困った子よねえ。
美咲　……上行ってくる。
紀子　やめてよ？今、奈海と喧嘩するの。
美咲　しないよ。
紀子　**（美咲に）**あまり刺激しないでね。
美咲　……。

美咲は階段を上がっていく。その後ろ姿を見る紀子と幸男。

幸男　言わん方がよかったですね。
紀子　良いの良いの、良い薬。
幸男　バリ怒っとったですよ？
紀子　いつものこと。

再び階段の方を見る紀子と幸男。

幸男　なんかヤツれとらんでしたか？
紀子　そう？
幸男　妄想も入っとるかもしれんですけど、実際、大変かとでしょうね。
紀子　好きなことやってんだから、当然でしょ。
幸男　まあ、そうですけど……案外、妄想じゃなかかもしれんですよ？
紀子　そうかな？
幸男　他にも怪しか噂、色々聞きますし。
紀子　小さい島だからね……。
幸男　はい……。
紀子　美咲も、そこまでバカじゃないでしょ。
幸男　そうですかね……。
紀子　心配し過ぎ。大丈夫だって。

幸男　それなら、よかとですけど……。

出入口から、拓馬がやって来る。

拓馬　ちわッス。
二人　……こんにちは。
拓馬　今日からお世話になります。東拓馬ッス。『ヒガタク』って、呼ばれてるッス。
紀子　**（あっけにとられている）**
幸男　**（あっけにとられている）**

拓馬は、ずかずかと中へ入り、紀子の目の前へ行く。

紀子　**（やや退いて）**何ですか？
拓馬　イメージ通りッス……。
紀子　……何がでしょう？
拓馬　鰐口奈海さんッスね？
紀子　……月島紀子です。
拓馬　あ……「ミステイク」ッス。鰐口奈海さん、どこッスか？
紀子　上にいますけど……。
拓馬　チーッス。

階段を上がっていく拓馬。それを見送る紀子と幸男。

幸男　何ですかアレ？
紀子　分かんない。
幸男　強盗じゃなかですよね？自己紹介しとったし……。
紀子　まさかアレ、奈海が言ってたバイトくん？
幸男　バイト？バイトって、何ですか？
紀子　たぶんそうだ……あ、そうか……。
幸男　ちょっと何ですか？バイトって。
紀子　えっと……とりあえず、奈海が次の『火照』になったのね。
幸男　はい。なんかそがんこと言われました。
紀子　で、バイトを雇うって、言い出して……。
幸男　**（やけに驚いて）**は？バイト？火照の？
紀子　そう。
幸男　有り得んでしょう。
紀子　奈海的には有り得たみたいなの。
幸男　俺、ちょっと言うて来ます。

幸男は階段の方へ向かう。

紀子　いい、いい。やめて。
幸男　え？だってバイトですよ？
紀子　刺激しないで。

幸男は戻ってくる。

幸男　俺一人で十分でしょ？
紀子　まあね……そうなんだけど。
幸男　だいたい『火』ば使わんで、ＬＥＤにするとか言うとも奇怪しか。
紀子　それは聞いた？
幸男　嬉しそうに言われました。
紀子　危険だし、大変なのは分かるんだけどね……。
幸男　『火』やけん、よかとですよ。なんか、『火』ば見とったら……体の、こう……熱くなってくるとですよね。
紀子　それ、近づき過ぎ。
幸男　違いますって、心の燃えるとです。
紀子　うん。はいはい。
幸男　でもそうでしょ？誰も納得せんでしょ？
紀子　まあね……漁協の人達にも……。（思い出して）あ！幸蔵叔父ちゃん……。

紀子の言葉で出入口を素早く見る幸男。誰もいないことで安心する。

紀子　どうした？
幸男　え？いや、別に。何でんなかです。
紀子　何かおかしくない？
幸男　いや……。
紀子　……叔父ちゃん。

もの凄い勢いで後ろを振り返る幸男。だが誰もいない。
その行動を取り繕うように不思議な行動をする幸男。
紀子はそれをじっと見ている。

幸男　あ……俺、そういえば用事があったなあ。うん、そうやアレばせんば。

幸男は急いで帰ろうと出入口へ向かう。

紀子　待ちなさい。
幸男　ちょっと俺、見たかテレビのあるけん、帰ります。
紀子　ここで見ればいいじゃない。

幸男　だって、ホラ、ここじゃ……スカパー映らんし……。
紀子　ほう。スカパーで？何を？見るの？
幸男　お？……おにゃんこ……的な？
紀子　へ～。
幸男　ははははは。
紀子　座って？
幸男　……おにゃんこクラブ？
紀子　座りなさい。

すごすごと椅子に座る幸男。その前に立っている紀子。
鈴が鳴る。紀子は連絡パイプを使う。

紀子　はいはい。どうした？
美咲　「奈海、いる？」
紀子　来てないけど？
美咲　「変な男と、どっか行ったんだけど。」
紀子　それ多分、例のバイトくんだと思う。
美咲　「あれが？」
紀子　とりあえず、まだそこにいて。幸蔵叔父ちゃんが来たら、幸男くんに代わってもらうから。
美咲　「あたしがするの？」
紀子　初めてじゃないでしょ？何とかして。
美咲　「はい……。」

幸男は紀子が話している隙に逃げようと試みる。
が、紀子に牽制されて出て行けない。

紀子　さて、幸男くん？
幸男　ごめんなさい。
紀子　説明して？後ろめたいことでもあるのかな？
幸男　いや、後ろめたいっていうか、何ていうか、時折、自分でも、よう分からん行動ばすることの、多々ある今日この頃に、いささか困ってしまってですね。
紀子　幸蔵叔父ちゃんが来たら困る？
幸男　うっ！
紀子　分かり易いリアクションするねえ。
幸男　何言いよっとですか、ノープロブレムですよ。
紀子　ちゃんと話してくれない？悪いようにはしないから。
幸男　敵わんなあ……。
紀子　どうしたの？
幸男　……最近、家に帰っとらんとです。

紀子　ああ、そういうこと？
幸男　ごめんなさい。
紀子　だから時江叔母さん、お葬式の時、怒ってたんだ。
幸男　はい。
紀子　で、昨日から、ずっと上に？
幸男　そういうことです。
紀子　最近って、いつから？
幸男　……先週の日曜から。
紀子　日曜……。
幸男　土曜だったかな……。
紀子　土曜？
幸男　金曜日……ですね。
紀子　一週間経つじゃない。
幸男　ごめんなさい。
紀子　それまずいでしょ。
幸男　まずかですよね……。
紀子　友達の家にいたわけ？
幸男　……ここに。
紀子　ここ？
幸男　はい。
紀子　夜は？
幸男　上ば使ってよかって、叔父さんが……。
紀子　お父さんが？
幸男　親父と喧嘩したって言うたら、「しばらくおってよかぞ」って。
紀子　それ叔父ちゃん達知ってるの？
幸男　知らんです。言うとらんですけん。
紀子　もう……お父さん、何でそういうこと言うかなあ。
幸男　まあ、男の友情みたいな？
紀子　あんたが、言わないの。
幸男　ごめんなさい。
紀子　ねえ……？
幸男　はい？
紀子　じゃあ、お父さんが火に喰われた時……。
幸男　……はい。
紀子　だから幸男くんが？
幸男　……はい。
紀子　そっか……そういうことか……。
幸男　俺がもっと早う気づいとけば、こがんことには……。
紀子　ううん。違うよ。……全然違うから。
幸男　そいけど。

紀子　違うって。
幸男　……。
紀子　海の神様に誘われたらさ……断れないんだから。……そうでしょ？
幸男　……。
紀子　お父さんはさ……裏切られたんじゃないから。
幸男　そいはなかです。
紀子　うん。
幸男　平山のじい様が適当に言いよるだけですよ。
紀子　そう、だから違う。
幸男　はい。
紀子　……最近さ、お父さん……何か言ってなかった？
幸男　何かって？
紀子　聞いてない？
幸男　特に……はい。

ブザーが鳴る。

幸男　来た！

幸男はどこへ隠れるか、あたふたしている。

紀子　幸男くん。もう無理だと思う。諦めよう？
幸男　悪いようにせんって言うたじゃなかですか。
紀子　事情が事情でしょ？
幸男　ズルかあ……。
紀子　観念しよう。
幸男　紀子さん、一生のお願いです。匿って下さい。
紀子　幸男くん。
幸男　何でもします。お願いします。**（土下座して）**お願いしますから、紀子さん。
紀子　……自信ないよ？
幸男　ありがとうございます！
紀子　えっと、じゃあ……台所？
幸男　はい。

幸男は奥の部屋に走り去る。再びブザーが鳴る。

紀子　はーい。すぐ行きます。

紀子は出入口に向かう。
誰もいなくなり、静かになる。

遠くから、幸蔵と紀子の声が近づいてくる。

幸蔵　キツかねぇ。
紀子　ゆっくり来て下さい。
幸蔵　（息を切らして）ヒーヒー言うね、これは……。
紀子　よいっしょ。
幸蔵　（息を切らして）今から、よいしょとか言いよってどがんすっとか。
紀子　なんか、クセで。
幸蔵　あいたこら……あいた。

紀子と幸蔵が出入口から現れる。

幸蔵　ああ、着いた着いた。
紀子　冷たいもの持ってきますね。
幸蔵　（息を切らして）うんにゃ、温っかとば貰おうかね。

幸蔵は奥の部屋へ行こうとする。

紀子　あ、叔父ちゃん、座ってて。持ってくるけん。
幸蔵　すぐそこたい。
紀子　いやいや、ほら、キツかし。もうココで。
幸蔵　……そうや。
紀子　うん。待っとって。
幸蔵　おう。

紀子は奥の部屋に行く。突然、臭いを嗅ぎ始める幸蔵。

幸蔵　ノリちゃーん？
紀子　（奥から）はーい？
幸蔵　（臭いを嗅いで）ノリちゃーん。
紀子　はいはい。何でしょう？
幸蔵　（鼻で嗅ぐ）……何か臭か。
紀子　え？何？
幸蔵　（思い出しながら）どっかで嗅いだごたるなあ……。（鼻で嗅ぐ）あ、幸男。
紀子　うそっ。
幸蔵　あん男、何日も風呂に入らんかったら、独特な臭いのするとさね。
紀子　そんな臭いする？
幸蔵　えっと、アレ、アレ、あの……アレ、松茸のお吸い物。アレに似とるとさ。
紀子　……あ、朝からね、飲んだからじゃないかな？
幸蔵　松茸のお吸い物ば？

紀子　うんうん。あの……美咲が好きだから。
幸蔵　インスタントの？
紀子　そうそう。インスタントの、松茸の、お吸い物。
幸蔵　……朝から飲まんちゃよかろうに。
紀子　ホントねぇ？（わざとらしく）あ、お茶入れてる途中だった。

紀子はその場を逃げるように奥へ。
幸蔵は気になって臭いを嗅ぎ続け、だんだん奥の部屋の方へと進んでいく。
そこへお茶を入れてやって来る紀子。

紀子　お待たせしました。

お茶の臭いを嗅ぐ幸蔵。

幸蔵　うん。良か匂い。
紀子　（椅子を指して）どうぞ。

椅子に腰掛ける幸蔵。紀子はそれを見て、お茶を出す。
そこへ拓馬が階段を降りてきて、奥の部屋へ向かって歩き、入って行く。
その様子を呆然と見つめる幸蔵と紀子。

幸蔵　誰か？あれは。
紀子　え？あ……えっと美咲とね、一緒に来た人。
幸蔵　へえ、ミーちゃんの？
紀子　そうそう。彼氏……なのかな？
幸蔵　どら、挨拶ばせんばな。

立ち上がろうとする幸蔵。すぐさま紀子が幸蔵の前に立ちふさがる。

紀子　いやいやまだ……なんかあの……難しい関係らしくて。
幸蔵　……訳ありや？
紀子　そうそう。まあ微妙な関係なんで、そっとしておいた方が、良いかな。
幸蔵　ああ……難しかな。

そこへ奈海が階段を降りてくる。紀子がそれに気がつく。

紀子　（手招きして）奈海。

幸蔵に気づいた奈海は、階段を上がって行く。

紀子　奈海！

奈海は紀子の視界からいなくなる。

紀子　（幸蔵に）何だろうね？あれ。
幸蔵　呼んでこんね。
紀子　あ、うん……。
幸蔵　俺は別にお茶飲みに来たとじゃなかとやけんね？
紀子　うんうん、分かってる。
幸蔵　忙しかとやけん、二人とも呼んで来んね。
紀子　うん、そうだね……。

奈海を追いかけて、紀子は階段を上がっていく。お茶を飲む幸蔵。

幸男　（奥から）うおっ！
拓馬　（奥から）うおっ！

奥の部屋から駆け出てくる幸男。それを見る幸蔵。
慌てて奥の部屋に走り去る幸男。
幸蔵は慌てずお茶を飲み、落ち着いた瞬間、走って奥の部屋に行く。
奥から幸蔵と拓馬に連れられて入ってくる幸男。

幸男　（腕を極められて）痛たたた……放せって。

テーブルの前に戻ってきて手を放す拓馬と幸蔵。

幸蔵　（拓馬に）どうも……。
拓馬　ういッス。

再び奥の部屋に去っていく拓馬。
幸蔵から目を逸らしている幸男。

幸蔵　言うことあるとじゃなかや？
幸男　……別に。
幸蔵　帰って来いって言うたやろが？
幸男　……知らん。
幸蔵　何かノリちゃん、奇怪しかって思いよったら……ココ居ったとか。
幸男　紀子さんは、関係なか。
幸蔵　そいやったら何か？勝手に入ってきたとか？
幸男　……。

幸蔵　もう出入りせんごとって言うたやろが？耳はついとらんとか？
幸男　ついとる。
幸蔵　したら何で守れんとや？
幸男　……。
幸蔵　お前『火照』になりたかとか、まだ思うとっとか？
幸男　うるさかなあ……。
幸蔵　『火照』には、鰐口しかなれん。何遍言うたら分かるとや？
幸男　アホくさ。
幸蔵　何て？
幸男　子どもじゃなかとぞ。
幸蔵　子どもでもこんぐらい分かる。
幸男　……やぜか。
幸蔵　そがんことしよったら、お前も『火に喰われる』とやけんな？

幸蔵の言葉に反応し、幸男は幸蔵を睨む。

幸蔵　何か、そん目は。あ？
幸男　……。
幸蔵　お前も、いい加減大人になれさ。

紀子が階段から降りてきて幸男に気がつく。

紀子　あ……。
幸蔵　ノリちゃん。
幸男　紀子さんは関係なかって。
幸蔵　やかまし！

幸男は勢いよく階段を駆け上がっていく。

幸蔵　幸男！待たんか！

幸蔵の呼びかけも空しく、すぐにいなくなる幸男。

幸蔵　まったく、あのバカタレは……。

幸蔵は鈴を鳴らす。

美咲　「はーい。」
幸蔵　誰ね？
美咲　「幸蔵叔父ちゃん？」

幸蔵　ミーちゃんね？
美咲　「すぐ降りてきます。」
幸蔵　うちのバカ息子もついでに降ろして。
美咲　「幸男のこと？」
幸蔵　よろしくね。
美咲　「……分かりました。」

パイプから離れ、幸蔵は紀子を見る。

幸蔵　あのバカ、何ば考えとっとやろうか、な？
紀子　いや……。
幸蔵　連れて帰ってよかとやろ？
紀子　……もちろんです。
幸蔵　ノリちゃん。何で早う言うてくれんとね？
紀子　私もさっき知ったんです。
幸蔵　隠さんちゃよかやかね。
紀子　……はい。

階段を駆け下りてくる美咲。その後ろから奈海が降りてくる。

美咲　すみません、お待たせして。
幸蔵　バカ息子は？
美咲　何か、イヤみたいです。
幸蔵　**（吐き捨てるように）**バカタレが……。
紀子　すみません……。
美咲　どうしたの？

椅子に腰掛ける美咲。奈海はみんなから離れている。

紀子　家出してたんだって。
美咲　**（笑って）**家出？
幸蔵　何の可笑しかと？
美咲　だって、いい歳して家出って。
幸蔵　一週間、何も連絡せんで出て行ったら心配するやろが。昨日、葬式に顔見せたって思うたら、また帰って来んで……。親は心配しとっと。そんぐらい分からんとか？
美咲　……すみません。
幸蔵　**（紀子に）**今まで、どこ放っつき回とったか聞いたね？

紀子は奈海を見る。奈海は紀子から目を逸らす。

紀子　……ココみたいです。
幸蔵　は？ずっとね？
紀子　お父さんが「居ていい」って言ったらしくて……。

幸蔵は奈海を見る。

幸蔵　知っとったとやろ？
奈海　……。
幸蔵　何とか言わんか。
紀子　お父さんが決めたことだから……。
幸蔵　やけん何ね？何かあってからじゃ遅かとよ？
奈海　何かって何？エッチとかするわけなかたい。
幸蔵　やめんか。……そがんこと女子（**おなご**）が言うもんじゃなか。
紀子　すみません。
奈海　……。
紀子　（**奈海に**）あんたも謝りなさい。
奈海　謝ることなかし。
幸蔵　じゃあ何でさっき逃げたと？
奈海　逃げとらん。
幸蔵　逃げたやかね。
奈海　逃げとらんって。
紀子　謝りなさい。
奈海　イヤ。
美咲　もういいよ。（**幸蔵に**）落ち着こう、ね？（**紀子に**）お姉ちゃんも。ほら、『火照』のこと決めないと。
幸蔵　……決まったとじゃなかとや？
美咲　うん……ええと、（**紀子に**）パス。
紀子　……一応、三人で話をした結果、奈海が継ぐことになりました。
幸蔵　奈海ちゃん？
紀子　でも、色々事情があって、保留中です。
幸蔵　……何ね、事情って？
美咲　（**奈海に**）ほら、言いなさい。
奈海　え～。
美咲　あんたが考えたことでしょ？
奈海　（**幸蔵を指して**）絶対怒るもん。
幸蔵　怒らないけん、言わんね。
美咲　（**奈海を促して**）ほら。
奈海　……『火照』の火ば、ライトにしようと思います。
幸蔵　は？

奈海　そいで、アルバイトば雇って、やってもらおうと思うてます。
幸蔵　**（やけに驚いて）**アルバイト？……お前何ば考えとっとか？
奈海　ほら怒った……。
幸蔵　そりゃ怒るやろ？どげんしたら、そがんこと考えると？バカじゃなかとか。
奈海　バカじゃなか。
紀子　奈海なりに色々考えて、こういうこと言ってるとは思うんですけど……。
幸蔵　**（紀子に）**お前達も、そいで良かとか？
紀子　良くないから……相談しようと思って。
幸蔵　奈海ちゃんってだけでも駄目とに、そがんともっと駄目。
奈海　あたしじゃ駄目と？
幸蔵　駄目。
奈海　何で？
幸蔵　何でって……そがんことも分からんとか？
奈海　……若かけん？
幸蔵　そうさ。まだ世間も何も知らん若か者に、大事か役目ば任せられるわけなかやっか。
奈海　お父さんだって若か時に継いだたい。
幸蔵　義理兄さんとお前は違う。
奈海　何の違うと？
幸蔵　お前に力仕事の出来るとか？
奈海　やけん、バイトくんに……。
幸蔵　そがんとには、させられん。
奈海　ライトにしたら、誰でも出来るたい。
幸蔵　ライトに海の神様が寄って来るとか？海の神様は、ヘップリ虫じゃなかとぞ？……。
奈海　お前、何も分かっとらんやっか。
幸蔵　分かっとる。
奈海　俺たち漁師が安心して仕事ばするためには……。
幸蔵　**（遮って）**明るければ何でも一緒。
奈海　聞かんか。
幸蔵　幸蔵叔父ちゃん、考え方の……。
紀子　奈海。
幸蔵　**（遮って）**聞かんかって言いよろうが。

奈海は幸蔵から顔を逸らす。

幸蔵　火照が毎日頑張って火ば焚いてくれるけん、俺たちが安心して仕事ば出来ると。毎日火の近くに居って、海の神様と話ばするけん魚の獲れる。そい分からんとや？
奈海　やけんってわざわざ危なかことせんちゃよかたい。
幸蔵　命がけやけん、海の神様も魚ば獲るとば許してくれよると。

奈海　そいでたまには命まで取られろって？火に喰われて、死ねば良かってそういうこと？

紀子　奈海！

奈海は紀子を見て、冷静を取り戻す。

幸蔵　……長かこと火に触れたら、そいはあるとよ……。

奈海　やけん、しょんなかって？

幸蔵　義理兄さんも覚悟しとったことやけん。

奈海　……。

幸蔵　お前たちはそがんして大きくなったと。義理兄さんが命かけて、高校に行かせて、大学に行かせて、仕送りして。

美咲　……。

幸蔵　やけん、アルバイトとかには頼まれん。分かったな？

奈海　幸男はしとるたい。

幸蔵　幸男には、させん。もうココにも来させん。……そいで、良かな？

奈海　……良くなか！

階段を駆け上がっていく奈海。

紀子　奈海！

幸蔵　……あの子、まだ子供やけん分からんとよ。……分からん者にみんなの命は預けられん。

美咲　……。

幸蔵　ノリちゃんは？出来んと？

紀子　私は……。

幸蔵　結婚しとってもよかとよ？旦那さんとこっちに来んね。

紀子　いや……。

幸蔵　旦那さんには、聞いたと？

紀子　まだ……。

幸蔵　やけん、昨日言うたやろ？

紀子　ごめんなさい……。

幸蔵は、美咲を見る。

美咲　あたしは、駄目だからね。

幸蔵　……何でね？

美咲　我が儘かもしれないけど、あたし、辞めたくないから……。

幸蔵　そいけん、出来んと？

美咲　……うん。

幸蔵　違うとじゃなか？
美咲　……。
幸蔵　ミーちゃん、変なか噂のたっとるぞ？
美咲　……。
紀子　噂？
幸蔵　怪しかビデオに、ミーちゃんに似た人の出とるって。
紀子　幸蔵叔父ちゃん、何言ってるの？
幸蔵　**（美咲に）**あれ、お前か？
紀子　そんなわけないって。誰？そんなデマ広めたの。
幸蔵　みんなさ。
紀子　……嘘よ。
美咲　本当だね……みんな言ってるね。……今日、港で色々言われちゃった。
紀子　本当にやってたの？
美咲　やってたとしたら？
紀子　……。
美咲　悪い？
紀子　……それお父さんに言える？
美咲　……。
紀子　お母さんに報告出来る？出来ないでしょう？
美咲　もう言ったよ。
紀子　……いつ？
美咲　去年の冬。ここで。

頭を抱える紀子。

幸蔵　恥ずかしか……。
美咲　叔父ちゃんがしたわけじゃないでしょ？
幸蔵　お前、よう帰って来れたな？
美咲　……。
幸蔵　そいけん、昨日来れんかったとじゃなかとや？
美咲　違います。
幸蔵　何か言われるとがイヤで、帰って来れんかったとやろ？
美咲　気にしてません。
幸蔵　みんなお前のこと「ＡＶ女優になった」って言いよっとぞ？いやらしか目ばして見られて……恥ずかしか……汚か。
美咲　……だからこの島嫌いだ。
幸蔵　それが本音やろが？
美咲　……。
幸蔵　この島が好かんけん、帰って来とうなかったとやろ？
美咲　……。

幸蔵　ミーちゃん、早う崎島出らんね。
美咲　……。

美咲は奥の部屋に行く。紀子はそれを見つめる。

紀子　叔父ちゃん……言い過ぎじゃない？
幸蔵　全部本当のことたい。
紀子　言い方があると思う……。
幸蔵　優しく言うても、何も変わらんと。
紀子　……。
幸蔵　もう分かったろ？ノリちゃんしかおらんとよ。
紀子　私には……。
幸蔵　頼むけん、考えてくれろ。
紀子　……。
幸蔵　まだ時間あるけん。ね？
紀子　……はい。

幸蔵は紀子の様子を見ながら出入口へ去っていく。
紀子は椅子に座り考え込み、しばらくして奥の部屋に行き、電話をかける。
奥の部屋から拓馬が出てきて、椅子に座り、メモ帳を開く。
紀子は電話を終えて戻ると拓馬が寝ている。
奥の部屋から毛布を持ってきて拓馬にかけ、紀子は奥の部屋に戻る。

ニ・夕方

過ぎていく時間。夕方へと変わる。
変わりゆく時間の中、紀子が作業着を着て現れ、階段を昇る。
しばらくして奈海が階段を降りてきて、寝ている拓馬の頭をトングで突く。

拓馬　（目を覚まして）ちわッス。
奈海　居眠り禁止。
拓馬　ういッス。
奈海　どう？拓ちゃん。バイトやれそう？
拓馬　バッチリッス。最高ッスよ。
奈海　そう……。
拓馬　やっぱ良いッスね。海は綺麗だし、空気も美味い。最高ッスよ。
奈海　うん……。
拓馬　あれ？何かあったんッスか？
奈海　……言い辛かとけど、残念なお知らせ。
拓馬　え？え？何スか？

奈海　あたしさ、
拓馬　はい。
奈海　せっかく火照になれたのにさ、
拓馬　はい。
奈海　駄目って言われた。
拓馬　はい？
奈海　世間知らずやけん駄目とって。ライトにしたら駄目とって。ダメダメばっかり。
拓馬　おおっと、早くも自分、失業ッスか。
奈海　まだ決定じゃなかとけど……。
拓馬　ピンチッスね。
奈海　もう最悪。
拓馬　弱気になったら駄目ッスよ。気持ちで負けたら、何も上手くいかないッス。
奈海　そうだけど……。
拓馬　自分は、奈海っちの考え、リスペクトしてますから。
奈海　うん。
拓馬　当然ッスよ。綺麗な海を守るッス。
奈海　うん。
美咲　どういうこと？

二人の会話の途中で、美咲が立っている。

拓馬　ちわッス。
美咲　君、噂のバイトくんでしょ？
拓馬　ういッス。東拓馬ッス。
奈海　何？笑いに来たと？
美咲　笑おうにも、あんたの考えが分かんないんだけど。
奈海　どうせまた駄目って言うとやろ？
美咲　何かあるんでしょ？言いなよ。
奈海　言わない。
美咲　言って。
拓馬　**（美咲に）**奈海っち、フェイスブックやってたんッス。
奈海　拓ちゃん。
美咲　それで？
奈海　**（拓馬に）**もうそれ以上言わんでよか。
拓馬　ちゃんと聞いて欲しいッス。じゃないと分かんないッスよ。
美咲　で、何書いてたの？
拓馬　この島のこととか、火照のこととか、そういうのアップしてたんス。
美咲　**（奈海に）**そんなことしてたの？
奈海　ただの日記やし……。
拓馬　毎日書いてたッス。奈海っちはこの島が大好きなんスよ。何でもない一日なん

スけど、なんかスゲー幸せな一日みたいで、毎日キラキラしてたッス……。

奈海　拓ちゃん。

拓馬　そしたら魚が減ってきたとか、そういうこと書く日がだんだん増えてきて、なんかスゲー辛そうで……火を燃やして出る環境ホルモンが悪いんじゃないかとか、それが海の魚に影響してるんじゃないかとか。

奈海　もう良かよ。

拓馬　……良くないッスよ。

奈海　ありがとう拓ちゃん。もう十分。

拓馬　奈海っち……。

美咲　……そういうのさ、言ってくんなきゃ分かんないんだけど。

奈海　言っても分からんやろ？姉ちゃんに……バカやし。

美咲　うるさいな。難しいことなんて、あたしに分かるわけないじゃん。でも分かんないけどさ、あんたの気持ちぐらいは分かるよ。それぐらい信じなさい。

奈海　……うん。

拓馬　何か良いッスね。

美咲　ええ？

拓馬　いや、良いッスよ。最高ッスよ。感謝ッス。感謝ッスよ、時江叔母さん。

美咲　は？

奈海　へ？

拓馬　え？違うんスか？

美咲　違う。

拓馬　え～。何かスゲー目つき悪いから、時江叔母さんと思ったッス。

美咲　ねえ奈海、これ殴って良い？

拓馬　ちょっと。

奈海　ははははは。

美咲　（奈海に）あんた何笑ってるの？

拓馬　そうッスよ。笑い事じゃないッスよ。

奈海　だって……ははははは。

拓馬　（何か楽しくなって）ハッハッハッハ。

美咲　（拓馬に）あんたが笑う意味が分からない。

拓馬　ハッハッハ……誰だあんた？……ハッハッハ。

奈海　（笑いながら）美咲姉ちゃん……ははははは。

美咲　もう……。

二人の笑い声につられて微笑む美咲。

笑い続けていた奈海は、いつの間にか泣いている。

美咲は、奈海の側にそっと寄り添い抱きしめる。

その様子を見ていた拓馬に、美咲は「どこか行け」という仕草。

拓馬は了解し、階段を昇っていく。

美咲　うん……うん……。

奈海はだんだん落ち着きを取り戻していく。

美咲　あんたさ、ちゃんと泣いた？お父さんが死んだ後、泣いてないんじゃないの？

奈海　……泣けんかった。

美咲　紀子姉ちゃんもさ、こういうとこ下手なんだよね。何でも分かってるみたいに言ってさ。肝心なこと分かってないから。

奈海　ごめん……もう大丈夫だから。

奈海は立ち上がり、ティッシュで鼻水を拭く。

美咲　あたしさ、あんたは全部捨てたいんだって思ってた。

奈海　そがんことせんよ。

美咲　うん……ってことが分かった。奈海は、奈海なりに考えてたんだよね。

奈海　当たり前たい。

美咲　でもさ、やっぱりあの火は消せないよ。魚のこととか分かんないけどさ、お父さんもお母さんも、寂しがると思う。……そういうの嫌だよ。

奈海　……お父さんにね、話したことあると。

美咲　……それで？

奈海　「そっか」って。絶対駄目とか一言も言わんで、「そっか」って。

美咲　お父さんさ、奈海に継いで欲しかったのかもしれないね？

奈海　どうかな……。

美咲　あたし、ちっちゃい頃「やりたい」って言ったら、「お前、絶対駄目。」って言われたことある。

奈海　本当？

美咲　「お前は、いつかどっか行くけん。放ぽって出てかれたら堪らん。」って。なんか分かってたんだろうね、そういうの。

奈海　……。

美咲　だからさ、それだけ守ってくれたら、あたしあんた応援するよ？

奈海　本当に？

美咲　うん。……あたしじゃ無理だもん。しっかりしてないから。

奈海　そがんことなかよ。火照は出来んけど。

美咲　はいはい、そうです。

階段から幸男と拓馬が降りてくる。

幸男　行けって！

拓馬　何スか？

幸男　お前、上に来んな。

拓馬　営業妨害ッスよ。
幸男　お前が出来る仕事じゃなか。あっち行け。
拓馬　絶対俺の手が欲しい時が来ますからね。
幸男　そがんと永遠に来んけん安心しとけ。
拓馬　そん時、欲しいって言っても遅いッスからね！

幸男は階段を上がっていく。拓馬が納得いかない様子で降りてくる。

美咲　何？追い出されたの？
拓馬　はい。あれ、誰ッスか？
奈海　幸男くん。時江叔母さんのバカ息子。
拓馬　あれが幸男か……。
奈海　拓ちゃん、美咲姉ちゃんが味方になってくれるって。
拓馬　マジッスか。
美咲　どうにかしてみんなに認めさせよう。奈海のために。
拓馬　俺のためにも……。
美咲　うん、まあ頑張ろう。
拓馬　じゃあ作戦会議ッス。
美咲　よし。集合。
二人　ウッス！

テーブルを囲み、集まる三人。

美咲　現状把握。
奈海　敵は、時江叔母さん。
美咲　と、幸蔵叔父ちゃん。っていうか、漁協の人ね。
奈海　うん。
美咲　お姉ちゃんも、すでに丸め込まれている可能性があるね。
拓馬　あと、あの幸男だな……。
美咲　こちらの作戦は？
奈海　作戦参謀。
拓馬　ウッス。環境ホルモンを全面に押しだし、盾に使い、一点突破で行くッス。
奈海　拓ちゃん最高！
拓馬　ウッス。
美咲　一点突破か……弱い。
奈海　そう？
美咲　それだけで、論破出来る相手と思う？
奈海　う～ん。
拓馬　何か他に武器はないッスか？
美咲　武器？

奈海　武器ねえ……。**（三珠に気づく）**あった！
美咲　『三珠』？
奈海　これ使えるとじゃなか？
美咲　それ良い。
拓馬　何スか？それ。
奈海　火照継承者の証よ。
拓馬　おお～良いッスね。それを全面に押しだし、「自分は正統な継承者だ。自分こそが『火照』だ。この三珠が目に入らぬか。」これの繰り返しによる一点突破はどうッスか？
美咲　あんた一点突破好きねえ。
奈海　でも良い。さすが作戦参謀。
拓馬　ウッス。
美咲　もう一つ。もう一つ欲しい。
奈海　もう一つ？
美咲　三段構えで行こう。
奈海　う～ん。
拓馬　逆に考えるッス。こちらの弱点は何スか？
美咲　**（奈海を見て）**若い、か弱い、女。
奈海　ということは……私がムキムキになる！
拓馬　奈海っち最高！
美咲　真面目に考えて。
拓馬　チーっす。
奈海　世間知らずって言われたもんな……。
拓馬　ってことは、社会的に認められたら良いんじゃないッスか？
美咲　……結婚すればいいんじゃない？
奈海　結婚？
美咲　あんたが身を固めれば、文句はないでしょう？
奈海　誰と？
美咲　……この際だから、バイトくんでどう？
奈海　え？
拓馬　自分……ッスか？
美咲　良いでしょ？
奈海　良かわけなかたい。ねえ？
拓馬　**（やや恥ずかしげに）**満更でも無いッス。
奈海　あたし嫌だよ。
拓馬　え？
奈海　結婚とか考えられんし。
拓馬　自分のこと、嫌いッスか？
奈海　そがんことじゃなくて……。
拓馬　毎日、ハッピー、ハッピーッスよ？朝から晩まで、ハッピータイムッスよ？

奈海　……。
美咲　却下。
奈海　やろ？
拓馬　『結婚は、流れと勢い』。さあ奈海っち、カモン！
二人　……却下。
拓馬　（敬礼して）悲しいッス。
奈海　じゃあ、他の武器。
美咲　……敵の弱点は何？
奈海　あの二人の弱点？
美咲　そう。
奈海　ない。
美咲　幸男は？
奈海　……まあ弱点と言えば弱点やけど。
拓馬　駄目ッスよ。幸男と結婚とか絶対駄目ッス。
美咲　あ、それ良い。
奈海　嫌だよ。
美咲　昔結婚したいって言ってたじゃない。
奈海　昔は昔。今は今。
拓馬　今を生きるッス。

美咲は何かを思いつく。

美咲　昔……昔話。
奈海　昔話？
美咲　海の神様の。
奈海　そいが何？
美咲　使えんかな？
奈海　ちょっとストップッス。何スか？それ。
拓馬　昔から、鰐口の家に伝わる話があるの。
美咲　へ～。
拓馬　『昔、海の神様がいた。神様には三人の娘がいた。
美咲　『娘たちは人間に恋をした。神様の忠告も聞かず、娘たちは恋に溺れた。』
奈海　『海を捨て、山に入り、沢山の子を産んだ。』
美咲　『子が子を産んでまた産んで。いつしか山の木の実を食べ尽くした。』
奈海　『神様は言った。人の世に落ちた海の子よ。お前たちには海の恵みを与えよう。』
美咲　『実のない木々は、空を舞う火の粉となって、海は銀色に輝く。』
奈海　『燃やしなさい、私の愛する者達。』
拓馬　『感謝しなさい、お前とお前たちの子よ。』
美咲　なるほど……なんか似てるッスね。
　　でしょ？

奈海　娘も三人だし。
美咲　他人の忠告聞かないし。
奈海　このままやったら、みんな出て行きますよって。
美咲　形だけでもさ、それでイケるんじゃない？
拓馬　じゃあ、俺で良いッスよ。この際、どっちでも良いッス。
奈海　……お姉ちゃん、何かな？コレ。
美咲　何か腹立つね。
拓馬　迷ってる暇、無いッスよ？
美咲　……まあ形だけだし。
奈海　じゃあ……負けた方ね。
二人　最初はグー。ジャンケン、ポン！

美咲が負ける。その瞬間、鈴が鳴る。

奈海　やった。
美咲　くっそ……。
拓馬　……そんなに悔しがらなくても良いんじゃないッスかね。
紀子　「美咲！奈海！」

激しく鳴り続ける鈴の音。美咲はパイプ管に近づく。

美咲　どうしたの？
紀子　「早く上に来て。」
奈海　何かあった？
紀子　「火が……変なのよ。」
美咲　変って何が？
紀子　「段々大きくなってる……。」
幸男　「叔父さんの時と同じごたる！早う来て！」
奈海　拓ちゃん、ココにいて！

美咲と奈海は階段を駆け上がる。拓馬はそれを見送る。
火が燃える大きな音。その音は明らかに安定を失っている。
みんなが階段を駆け上がったり駆け下りたりしながら、時間が過ぎていく。

三・深夜

深夜。
椅子にもたれて寝ている拓馬。
美咲と奈海も座っている。

美咲　ちょっと寝たら？
奈海　もうすぐ交代やろ？
美咲　（時計を見て）そっか……。
奈海　紀子姉ちゃん、休ませれば？
美咲　何度も言ってる。
奈海　頑固な主婦やねえ……。
美咲　……ちょっとは安定したかなあ？
奈海　もう体力の限界……。
美咲　酷かったもんね？
奈海　ねえ～。あがん上まで火の上がったと始めて見た。
美咲　……あたし二度目。
奈海　え？
美咲　お母さんが死んだ時も、あれぐらい上がっとった。
奈海　オカルト？
美咲　どうかな？あるとかもね。
拓馬　（寝言で）オカズになるよ、それは！

美咲と奈海、突然の寝言に驚く。

美咲　……何なんだろうね。この男は。
奈海　バイトのくせに……。
美咲　（拓馬に）何食べてるの？おいしい？
拓馬　気持ちい……。
美咲　……何か私、腹立ってきた。
奈海　あたしも。
美咲　ライター持ってきて。

奈海、ライターを持ってきて、拓馬の腕の近くで火を付ける。

拓馬　あちっ！
奈海　拓ちゃん！大学が、大火事よ！
美咲　逃げて！
拓馬　（寝ぼけて）俺に構わず、大学を逃がしてくれ！

拓馬、倒れる。再び熟睡。

美咲　この人、学者にはなれないね。
奈海　うん、終わっとる。

幸男がスモッグを手に持ち階段から降りてくる。

奈海はそれを見て距離を取る。

美咲　交代？
幸男　お願いします。
美咲　奈海。先に上がって、紀子姉ちゃんと代わって来て。
奈海　了解。

幸男、奈海にスモッグを手渡そうとするが、
奈海、幸男に目もくれず出ていく。幸男は奈海を目で追う。

美咲　落ち着いた？
幸男　うん。今のところ。
美咲　……幸男の火は収まってないみたいね？
幸男　奈海ちゃんやろ？
美咲　確かに。

幸男は突然笑い出す。

美咲　何？
幸男　いや昔はさ、なんか、こがんことしよったよね。
美咲　……うん。
幸男　叔父さんが上に居ってさ、みんなで交代で火ば見て、トランプとかして。
美咲　今考えたら酷いよね。上に子どもしかいない時もあったろ？
幸男　あったあった。
美咲　お父さん、結構テキトー。
幸男　でも楽しかった。
美咲　うん。
幸男　奈海ちゃん、すぐ寝てしもうてさ。
美咲　落書きして。
幸男　そうそう。
美咲　あれ、めっちゃ怒られたよね？
幸男　**（美咲を指して）**自分がしようって言い出したったい。
美咲　あたし？幸男やろ？
幸男　またそがんこと言う。
美咲　いや、絶対そうって。最終的にお尻叩かれたろ？
幸男　ああ。**（納得）**
美咲　ほら。
幸男　……叔父さんに叩かれたと、あんぐらいやったなあ。
美咲　幸男はね。
幸男　ミーちゃん、怒られ過ぎさ。要らんことばっかりしとるけん。

美咲　ホントね……。
幸男　変な意味じゃなかよ？
美咲　うん……。
幸男　たぶん、怒ってくれよったとさ。
美咲　うん……。

急に俯く美咲を、幸男は見ている。

美咲　あたしさ……去年の冬、お父さんに会ったとさね。
幸男　うん……。
美咲　ごめん……。
幸男　そいで？何話したと？
美咲　もう帰って来ようかなって。あたしが継ごうかって。
幸男　……怒られた？
美咲　何ばしに帰って来っとや。火照はさせんぞ。仕事なかとやけんな。半端者に務まるもんや。お前の覚悟はそがんもんじゃなかやろが。最後まで意地ば通せ。俺の顔ば思い出すな……。

泣き出す美咲。幸男は黙って俯いている。

美咲　元旦にね。お父さんに電話したと。「お父さん、映画に出るよ。みんなに自慢してね。もう大丈夫よ。あたし大丈夫やけんね……。」
幸男　……喜んどったろ？
美咲　「よかか、何があっても仕事ば休んだら駄目ぞ。せっかく掴んだもんは、死んでも放すな。何があっても帰ってくるな。」って約束したと。
幸男　うん。守っとる。

二人の話を、紀子が階段に腰掛けて聞いている。

美咲　本当はお父さん、死ぬつもりやったとじゃなかかな？
幸男　そいは分からん。
美咲　あたしがいっぱい迷惑かけたけん。自殺したとじゃなかかな？
幸男　そい違うって。
美咲　あたし……「またね」って……「またね」って……。
幸男　ミーちゃんは何も悪うなか。何も責任感じらんちゃよか。
美咲　あたし……あたし……。
幸男　大丈夫。大丈夫って。

泣いている美咲。紀子は階段を降りてくる。

紀子　誰でもさ、ああしてれば良かった、こうしてれば良かったって、そんなこと思う。

美咲　……。

紀子　あたしもね、自殺なんじゃないかって、そんなこと思った。何で気づいてあげられなかったんだろう。何に悩んでたんだろう。何で教えてくれなかったんだろう。

美咲　……。

紀子　あたしの最後の言葉、「ごめんね」だよ？今年のお正月は行けないから、ごめんね。……来れとるたい、あたし。何やろうね？バカんごたる。

美咲　……。

紀子　でもさ、どんなに後悔しても、もう戻って来んとよ。

美咲　……お姉ちゃん、奈海にやらせて。

紀子　……。

美咲　火は残すって約束したけん、やけんお願い。

紀子　あたしもさ、どうしたって無理やけん。あたしからお願いする。

美咲　うん……。

幸男　俺も居るし、なんとかなりますよ。

紀子　それが一番心配。

美咲　そうそう。

幸男　うっそー。

紀子　うそさ。……幸男くん、奈海に力を貸して下さい。お願いします。

幸男　はい。

美咲　あースッキリした。

紀子　ほら、あんた顔なんとかしてきなさい。酷いよ？

美咲　え～。

美咲は奥の部屋に行く。それを見送る紀子。

幸男は拓馬の頭を叩く。

拓馬　ぬおっ。

幸男　お前、起きろさ、いい加減。

キョロキョロする拓馬。ようやく状況を理解する。

拓馬　……何スか、この状況。

幸男　寝とったっちゃバイト代は出んとぞ。

拓馬　二対一ッスか……。

幸男　まだ寝ぼけとるとや？

拓馬　男、東拓馬。一世一代の一点突破ッス。

突然、紀子に向かって土下座する拓馬。

拓馬　お願いッス。奈海っちを火照にして下さい。
紀子　……はい。
拓馬　そう言うと思ったッス。でもここは何としても……あれ？はい？
紀子　そうするつもりだよ。
拓馬　マジッスか？
紀子　マジマジ。
拓馬　**（幸男に）**ガチッスか？
幸男　良かけん、上行って手伝え。
拓馬　良いんスか？
幸男　早う行って仕事ば覚えんば、追い出すぞ。
拓馬　ういッス。

階段を駆け上がる拓馬。

紀子　良いの？
幸男　しょんなかでしょ？
紀子　うん、しょんなか。

出入口から、幸蔵が差し入れを持ってやって来る。

幸蔵　ノリちゃん？差し入れ持ってきたばい。

幸男に気づく幸蔵。

幸蔵　……まだ居ったとか？
幸男　何しに来たと？
幸蔵　**（紀子に）**お腹空いたろ？

幸蔵はテーブルの上に食べ物を広げ始める。

紀子　うわあ、おいしそう。
幸蔵　時江が張り切って作ったけんな。
紀子　助かります。
幸男　毒入っとるとじゃなか？
幸蔵　何ば言いよっとかお前は。食わんちゃ良か。
幸男　要らん。
幸蔵　ああ、そいで良か。
紀子　すみません、気を遣ってもらって。

幸蔵　良かと、気にせんちゃ。ノリちゃんだけが頼りやけんな。
紀子　……お茶入れて来ます。

紀子は奥の部屋へ行く。

幸蔵　お前は、いつまで居っとや？
幸男　……良かやろ別に。
幸蔵　ここは、そがん良かとか？
幸男　……親父はさ、いつになったら変わると？
幸蔵　俺は何も変わらん。変わらんばとはお前やっか。
幸男　俺、変わらんよ？
幸蔵　……お前、義理兄さんに何て言われたとや？
幸男　叔父さんは何も言うとらん。
幸蔵　唆されたとか？
幸男　そがん言い方すんなって。
幸蔵　幸男。お前そこまでして、『火照』になりたかとや？
幸男　何やそい？
幸蔵　言うとくけどな、あがん子と結婚したっちゃ、『火照』にはなれんとぞ？
幸男　あがん子とか言うな。
幸蔵　お前、もしかしてビデオ観たとか？
幸男　ふざけんな！
幸蔵　……じゃあ奈海ちゃんや？
幸男　……。
幸蔵　なんとか言え。
美咲　叔父ちゃん何も分かっとらん。

二人の話を聞いていた美咲が奥の部屋から出てくる。

幸蔵　もう出て行ったって思うとった。
美咲　ここ、あたしの家やけん。
幸蔵　みんなの迷惑も考えずに、我が儘ばっかり言うとやけん。
美咲　みんなって誰？
幸蔵　みんなはみんな。
美咲　それ叔父ちゃんやろ？みんなじゃなくて、幸蔵叔父ちゃんの話たい。
幸蔵　……どがんしたら、こがん娘の育つとやろか。
幸男　叔父さんの悪口言うなさ。
幸蔵　お前、何で俺ばっかり責めるとや？義理兄さんが火に喰われたとは俺のせいっていうとや？え？違うやろが？
幸男　……。
幸蔵　全部、これが悪かと。義理兄さんに心配ばっかりかけて……そいじゃなかった

ら喰われたりするもんか。いつもの義理兄さんやったら、絶対そがんことなか。

幸男　何か親父、奇怪しかぞ。

幸蔵　……何がや？

幸男　何でわざわざそがん話になっと？奇怪しかやっか。

幸蔵　何も奇怪しくなか。

幸男　じゃあ何で平山の爺さんは「裏切られた」って言いよったと？あれ、どがん意味？

幸蔵　……そがんと知らん。

幸男　……。

幸蔵　何も知らん。

幸男　ちゃんと言うて。

幸蔵　知らんって言いよろうが。

お茶を持ってきた紀子に幸蔵が気づく。

幸蔵　ほら、ノリちゃん、酷かとよ。幸男が俺ばイジメると。

紀子　叔父ちゃんゴメン。私も聞きたい。

幸蔵　ノリちゃん……。

紀子　私、子どもの頃に何回も聞いた。「いつか裏切られる」って平山さんのお爺ちゃん言ってた。お葬式の時に「裏切られた」って聞いて、思い出して……ねえ、アレどういう意味？

幸蔵　……そいば聞いたら、引き受けてくれると？

紀子　火照は、奈海にお願いしようと思ってる。

幸蔵　奈海ちゃんは駄目って。

奈海　何で？

階段を降りてきていた奈海が立ち止まる。

奈海　何であたしじゃ駄目と？

幸蔵　……お前じゃ駄目と。

紀子　駄目ばっかりじゃ誰も納得しないよ。

幸蔵　……。

紀子　ちゃんと話して？

幸蔵は、椅子に腰掛ける。

幸蔵　昔話、覚えとるやろ？

紀子　海の神様の話？

幸蔵　三人の娘はな、生まれたら駄目やったとよ。

紀子　どういう意味？

幸蔵　魚がな……獲れんごとなるって言われとると。海の恵みば受けるために、三人目は燃やさんばいかんって。
美咲　『燃やしなさい、私の愛する者達。』
紀子　あれって、そういうこと？
幸蔵　奈海ちゃんが生まれてすぐ、漁協の者と義理兄さんのとこに行ったと。このままやったら魚の獲れんごとなるけん。……そいけど義理兄さん断って、お願いしますって頭下げてきて。
美咲　そんな話、信じる方がどうかしてる。
幸蔵　みんな笑って済ませたかったさ、そいけどだんだん笑えんごとなってきたとよ。魚のどんどん減って、仲間は首吊って死んで……もう何かに縋るしかなかたい。……そいしか出来んやっか。
美咲　アホらし……。みんなバカばっかり。
幸蔵　じゃあ、どがんしろって言うとや？このままみんな死んでしまえって？……崎島は漁師の島やけん、魚の取れんかったら、食べていけんとぞ。魚の取れん責任は……『火照』がとらんばと。
幸男　やけん、死ねって言うたとや？
幸蔵　死ねとか言うとらん。……俺ば責めんなって。
幸男　叔父さんば、殺したやっか！
幸蔵　身内ば好きで殺す人間のどこに居っとか！
幸男　何しよっと？みんな。……漁協の者も……叔父さんも。
紀子　お父さんは『火照』やけん。……誰よりも、誇りに思っとった人やけん。
幸蔵　……。
紀子　島のみんなは知っとると？
幸蔵　うん。……みんなで決めたけん。
紀子　みんなで隠してたの？
幸蔵　うん……。
奈海　あたしのおったけんお父さんは……。
紀子　奈海。それ違うよ。
奈海　あたしがお父さんば……。
紀子　違うって。

奈海は奥の部屋へ走り去る。

紀子　奈海！
美咲　……幸蔵叔父ちゃん、あたしのこと汚いとか、よく言えたね。
紀子　美咲。
美咲　だって、そうやろ？何でんかんでん隠して、隠し通して。
紀子　やめんね。
美咲　お姉ちゃん、許せる？
紀子　許せるわけなかたい。

幸蔵　……。
紀子　でもね……みんな辛かとよ。
美咲　『火照』なんか、なくなればいい。

美咲、奥へ行く。

紀子　私、みんなの気持ち少しだけ分かる。分かるけど……やっぱり違うと思う。
幸蔵　……。
紀子　言ってくれてよかった。ありがとう。
幸蔵　すまんかった……。
紀子　……変わろう？少しずつで良かけんさ、変わろうよ？
幸蔵　……うん。
紀子　鰐口は、もう終わったよ。
幸蔵　……うん。

突然の鈴の音。紀子が連絡パイプの所へ行く。

紀子　どうしたの？
拓馬　「大変ッス。火が燃えてるッス。」
紀子　また、酷くなったの？
拓馬　「違うッス。飛び火して全部燃えてるッス。」
紀子　何してんの！
拓馬　「風がスゲえッス。スッゲえ風がブアーって来て……。」
紀子　そこもういいから、降りてきて。
拓馬　「了解ッス。」
紀子　叔父ちゃん。
幸蔵　火に喰われる……。
紀子　叔父ちゃん！

奥から、美咲と奈海が駆け込んでくる。

美咲　お姉ちゃん、これ何？
紀子　燃えてるみたい。
美咲　奥の部屋に移ってきて、台所も危ないよ。
紀子　奈海は？
美咲　頑張って消してる。

紀子、美咲奥へ行く。残された幸男と幸蔵。
やがて幸蔵は階段へ向かう。

幸男　どこ行くと？
幸蔵　……。
幸男　火に喰われると？
幸蔵　……消すとさ。
幸男　そう……。
幸蔵　止めんとやな？
幸男　……止めんよ。

幸蔵は階段を昇っていく。奥の部屋から、三人が入ってくる。

紀子　**（美咲に）** 駄目って！
美咲　消せばいいじゃない！
紀子　消しちゃ駄目。
美咲　危ないのよ？全部燃えちゃうのよ？
紀子　……。
美咲　いいじゃない。全部なくなれば。
奈海　駄目。
美咲　何で？
奈海　お父さん消えちゃう。

拓馬が階段を駆け下りてくる。

拓馬　急ぐッス。すぐそこまで来てるッス。
紀子　行こう。

美咲と奈海は出入口から出て行く。紀子は辺りを見回す。

紀子　幸蔵叔父ちゃんは？
幸男　……。
紀子　幸男くん？幸蔵叔父ちゃん、どこ？
幸男　上、行った。
拓馬　さっき、すれ違った人ッスかね？
紀子　**（拓馬に）** 大丈夫なの？
拓馬　冗談じゃないッスよ。今、上に行ったら、ひとたまりもないッス。

拓馬は出入口から出て行く。

紀子　**（幸男に）** 止めなかったの？
幸男　あい、叔父さんば……。
紀子　何で止めんかったと！

幸男　……。
紀子　あんたが、そんなんでどがんすっと！
幸男　……。
紀子　上、行くよ？
幸男　……足、動かん……。
紀子　男やろが！

紀子は幸男の手を引き階段を昇っていく。
全てを焼き尽くす火の音と共に暗くなっていく。

四・夜明け前

日が変わり、燃え尽きて、廃墟になった夜明け前の『照塚』。
闇の中に紀子が一人、佇んでいる。そこへ懐中電灯を持った奈海が現れる。

奈海　……。
紀子　燃えると早いね……。
奈海　何もなくなった……。
紀子　……。
奈海　消えてしもうた……。
紀子　そう？全部消えた？
奈海　消えとるたい……。
紀子　（三珠を指して）それ何よ？
奈海　（三珠を見る）
紀子　あんた誰よ？
奈海　あたし……。
紀子　何が消えたの？
奈海　……。
紀子　みんな必死になって消してくれてさ。消しちゃいけないのに、みんなで消してくれた。……もう良いんじゃない？それで。

美咲が階段を降りてくる。

美咲　綺麗に燃えたね。
紀子　ホント綺麗に。全部、ね？
奈海　うん。
美咲　上、見てきたけどさ、まだ燃えてるみたいよ？
紀子　……消えなかったんだ。
奈海　あがん、水かけたとに？
美咲　あの火さあ、消えないんじゃない？

紀子　……しぶといからね。
奈海　……頑固やもんね。

幸男が階段を降りてくる。

幸男　勝手に入ったら駄目ですよ。まだ燃えとるとですけん。
紀子　いいじゃない、それで。
幸男　何言いよっとですか、危なかですけん、降りましょう。
美咲　ビビってる。
幸男　ビビっとらん。ミーちゃん、先に逃げたたい。
美咲　あたしが逃げるわけないじゃない。
紀子　（美咲に）幸男くん、格好良かったんだから。（幸男に）ね？
幸男　紀子さん……大好きです。
紀子　うわっ、キモっ。

拓馬がバケツを持って、階段を降りてくる。

拓馬　まだ結構、燻ってるッスね。
奈海　良いの良いの。
美咲　燻ってるぐらいが丁度良い。
奈海　そうそう。
拓馬　上はあらかた片付けたッス。
紀子　ごめんね。
拓馬　もう大丈夫ッスよ。
美咲　片付けたって、何？
拓馬　ん？
奈海　……消したと？
拓馬　はい。
幸男　消すなよ！
紀子　全部消したの？
拓馬　完璧ッス。
美咲　最悪……。
拓馬　いい汗かいたッス。
紀子　探して！
拓馬　え？え？

全員辺りを見回す。拓馬は、おどおどしている。

紀子　（美咲に）奥見て。

美咲は奥の部屋へ行く。奈海もついていく。

拓馬　全部消したから、ないッスよ。
幸男　何で消したとや？
拓馬　危ないッスよ？
幸男　『火照』の火ぞ？
拓馬　……ミステイクッス。
幸男　はあ……。（溜息）
紀子　バイトだから……。
美咲　（声だけ）あった！
紀子　あった？

美咲、出てくる。手にはライター。

美咲　新『火照の火』です。
奈海　ありがたや、ありがたや。
拓馬　そんなので良いんスか？
紀子　いいのよ。
美咲　ほ～て～り～。
紀子　何それ？
美咲　新しい儀式、私が作りました。
紀子　は？
幸男　ほ～て～り～。……ほら。

奈海がライターの火を灯す。

全員　ほ～て～り～。
奈海　（火に向かって）見える？

闇の中に、ライターの火だけが輝いている。
それぞれが火を見つめ、奈海がやさしく息を吹きかけて消す。

（おわり）

［作品名］　けしてきえないひ
［作］　福田　修志
［発行］　フーズ・カンパニー
［連絡先］　〒850-0036　長崎県長崎市五島町8-7-3F
《TEL》095-895-8147　《MAIL》seisaku@fs-company.com
《URL》http://www.fs-company.com